

平成22年度北区政策提案協働事業報告書

平成23年11月

地域振興部地域振興課

目 次

第1章	政策提案協働事業の制度について	
1.	政策提案協働事業の概要	1
2.	募集事業の流れ	2
3.	事業募集について	3
第2章	平成22年度実施事業の概要	
1.	ミニ保育 by 北区子育てネットワーク in 商店街	5
第3章	政策提案協働事業の評価について	
1.	評価の目的	11
2.	事業の評価方法	11
3.	評価項目	11
4.	評価の流れ	11
5.	自己評価	12
6.	事業の評価	13

第1章 政策提案協働事業の制度について

1. 政策提案協働事業の概要

北区では、平成19年度に区民、NPO、ボランティア団体等の自主的な公益活動に助成を行うため北区協働推進基金を創設しました。

本事業は、この基金を活用し、NPOやボランティア団体等の主体的な関わりの下で区との協働によるまちづくり事業を進め、多様で豊かな地域社会を実現することを目的としています。

北区内に活動拠点を有するNPO、ボランティア団体等の公益活動を行う団体から、先駆的で公益性の高い事業を提案（以下「提案事業」という。）していただき、採択された事業について、区と協働で取り組んでいきます。

募集する事業は、区の提起した課題に対して提案する「課題提案事業」と自由な発想により提案していただく「自由提案事業」の2種類です。

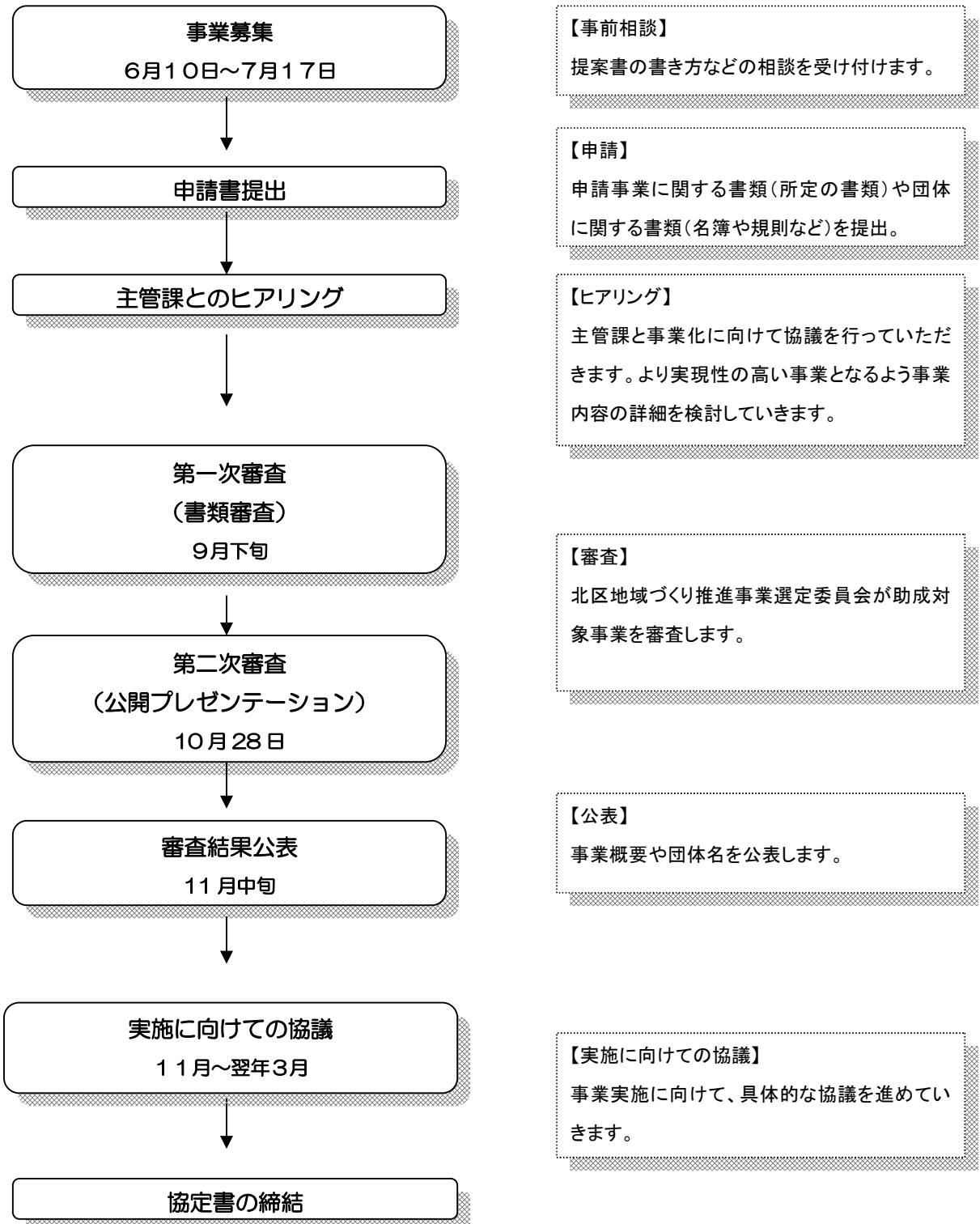
一事業に対して区が支出する上限は、500万円です（平成21年度募集時）。この500万円は、事業を提案した団体（以下「提案団体」という。）と区の双方の事業経費です。

応募していただいた提案は、提案団体と提案に関連する主管課（以下「主管課」という。）とのヒアリングを実施し、書類審査、プレゼンテーションにより北区協働地域づくり推進事業選定委員会（以下「選定委員会」という。）が審査します。

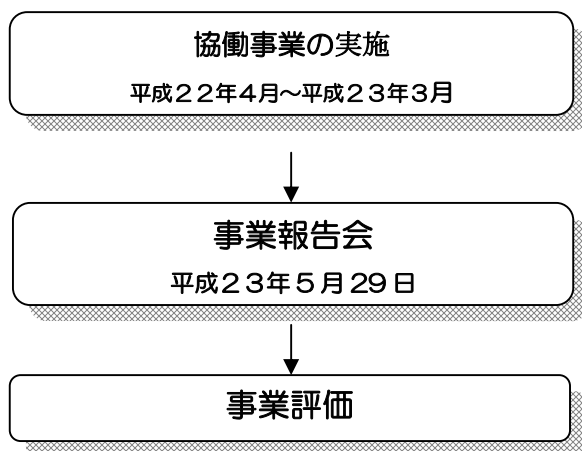
平成21年度は、3事業の応募のうち自由提案事業の1事業が選定され、22年度に実施しました。

2. 募集事業の流れ

【平成21年度】



【平成22年度】



【事業評価】

事業終了後、事業効果や実施手法等についての評価を行います。

3. 事業募集について

(1) 課題提案のテーマ

	課題	概要
1	シニア世代の地域参加支援	これから退職を迎える団塊の世代を含めたシニア世代が、主体的に健康で充実した生活を送れるよう、積極的な地域参加を支援する取り組み
2	環境活動について	「環境共生都市」北区の実現に向けて、環境保全、環境学習や啓発に関する事業など環境活動についての取り組み

(2) 審査基準

審査対象	審査基準
第一次 審査基準 (書類審査)	①事業目的は地域課題の解決を目的としたものか
	②事業手法に独自性、先駆性が認められるか
	③適切な役割分担となっているか
	④提案事業は実現可能か
	⑤協働で取り組むことによる事業効果を認めることができるか
第二次 審査基準 (プレゼンテーション)	①提案団体に事業の実現に対する熱意・意欲が感じられるか
	②提案団体に事業を実現する能力を認めることができるか
	③提案団体に新しい課題に対するチャレンジ精神を認めることができるか
	④事業内容に整合性が認められるか
	⑤協働への取組により提案団体、区に相乗効果が期待できるか
	⑥総合的観点から、実施すべき事業と認めることができるか

(3) 選定事業

自由提案事業

	事業名	団体名
1	ミニ保育 by 北区子育てネットワーク in 商店街	特定非営利活動法人 でんでん子ども応援隊

第2章 実施事業の概要

1. ミニ保育 by 北区子育てネットワーク in 商店街

提案団体 特定非営利活動法人でんでん子ども応援隊
主管課 保育課

(1) 団体概要

北区及び近隣地域において、子育て・子ども支援活動の担い手を募り、啓発、ネットワークする事により、子育てしやすいまちづくり、子ども達が自ら生きる力を育む事のできる環境づくりに貢献し、子どもの権利条約が定める子どもの基本的な権利が保障される社会の実現に寄与する事を目的としています。

(2) 事業目的

① ミニ保育で保育園待機児解消

保育園待機児増大問題の解消を速やかに進めること、および、預け先が確保できず働くことを諦めている女性の支援を行います。

② 子育てしやすい地域づくり

核家族化による子育ての負担感、良質な子育て情報を伝え合うことが難しい地域など子育て環境が厳しさを増す中で、子育てしやすい地域づくりに有効な、支援者・担い手を地域の人材で養成します。

(3) 事業概要

でんでん保育室を開設し、主にパートタイマーで働く母親が働きやすい環境をつくとともに、常時保育の必要はないが、週何日か子どもを預けることによって子育てがしやすくなる環境をつくりました。

① 保育室の概要

場 所：十条仲原1-27-3 キンコー堂ビル2階

開設日：週3日（火、水、木）

開設時間：午前9時30分～午後3時30分

対象者：おおよそ満3歳までの乳幼児

受入数：1日6～8人

利用料：週3日利用 月額 25,000円

週2日利用 月額 20,000円

週1日利用 月額 12,000円

職員体制：保育スタッフ3人、管理スタッフ2人

②利用状況

利用申込者数 延23名

月別平均利用人数 火曜日 7.6人

水曜日 6.3人

木曜日 6人

利用者	生年月日	利用期間	利用曜日	契約利用料
A	20年6月21日	4月6日	火・木	20,000
B	20年9月9日	4月7日	木	12,000
C	21年1月4日	4月6日	火	12,000
D	21年8月14日	4月8日~4月28日	水・木	20,000
E	21年5月19日	4月6日	火	12,000
F	21年11月20日	4月7日	7月より 火・水・木	25,000
G	20年1月2日	4月27日~12月	火・水・木	25,000
H	19年7月4日	6月1日~2月	火	12,000
I	20年12月8日	6月3日	木	12,000
J	20年4月24日	6月23日 (利用なしで辞退、返金)	水・木	20,000
K	20年11月5日	7月1日	木	12,000
L	21年8月29日	7月1日	木	12,000
M	20年9月19日	7月14日	水	12,000
N	20年9月26日	7月15日	火	12,000
O	21年9月20日	7月15日	水	12,000
P	20年11月5日	7月8日	水	12,000
Q	20年6月4日	7月22日	水	12,000
R	22年4月14日	9月1日	火・水・木	25,000
S	21年5月25日	9月28日	水	12,000
T	20年10月14日	12月14日	火	12,000
U	21年8月7日	1月6日	木	12,000
V	22年7月31日	1月19日	水	12,000
W	22年6月9日	2月1日	火	12,000

利用者（契約者数）の月別推移

4月	5月	6月	7月	8月	9月
7名	7名	9名	15名	15名	15名

10月	11月	12月	1月	2月	3月
16名	17名	17名	19名	19名	19名

月別利用契約料の推移

4月	5月	6月(注1)	7月	8月	9月
78,000	85,000	137,000	187,000	214,000	239,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月(注2)
251,000	251,000	232,000	256,000	262,000	257,000

(注1) 1名(契約料20,000円)のご利用者、利用開始前に辞退のために、20,000円を返金処理

(注2) 東日本大地震の影響で3月15日～17日を休業したため、その期間の利用料を一部返金しました。(2,000円/1日として、週利用日に応じて加算、返金額計48,000円)。

③主な取組

事業を円滑に実施するために様々な取組を実施しました。

- スタッフ会議等の開催

保育スタッフによる会議は毎月開催し、情報交換と意思疎通を図りました。理事長や事務局を含めたミニ保育運営委員会は、協議問題があるたびに開催しました。

また、団体と区とのワークショップを定期的で開催し、事業の実施状況の確認や課題等を話し合いながら事業を進めてきました。

- 今日のフォトメール通信

その日のお子さんの様子をお母さんのメールに発信するサービスを実施しました。

「今日のフォトメール」の例

今日はとってもいいお天気。
みんなで清水坂公園にお散歩に行きました。
シャボン玉がとっても上手な〇〇ちゃんとそれを追いかける●●ちゃん。
二人でとっても楽しそうでした。



- 利用者アンケートの実施

利用者の意見や意向を聞くためのアンケート調査を2回実施しました。

(利用者の声)

- ・娘も楽しく遊んでいるようで、良かったと思います。母も子ども満足しています。
- ・自分ひとりでは気付かないことや知らない育児の知識などを教えていただいたり、相談にのっていただいたり、預けて本当によかったと思っています。欲を言うと、16時までだといいなと思いました。
- ・働いていない母にも保育を利用させてもらえる所が、私はとても良いと思っています。子どもたち一人一人がみんな笑顔で楽しそうな顔を見ると、本当に良くして下さいているのがわかります。
- ・子どもをみてもらい母親は大変助かっていますが、母親と離れてお友達や先生方と過ごす機会を持って、子どももとても成長しました。先輩ママの先生方に育児の悩みや気になっていることを聞くことができるのも心強いです。子どもを直接みてもらったうえでの先生方のあたたかくも芯のあるお話に、母親ははっと気づかされたり励まされたりしています。でんでん保育室を利用出来て本当によかったと思っています。
- ・子どもを預けて仕事や資格の勉強ができる以上に、一人で子育てをしていた時は相談相手がいなくて不安になることも多かったが、ここでは相談しながら子育てができるのが最大のメリット。是非、来年も再来年も事業を続けて行ってほしいです。
- ・子育てに関しては悩むことが多く、今まではママ友に話を聞いてもらっていました。しかし、今ではちょっとした不安、悩みをでんでんの先生方、子育て経験の皆様聞いていただき的確なアドバイスをもらえます。少しでも一人の時間ができたりリセットすることで、心の余裕ができますし、なにより皆様が親切で、さらに親身になって対応して下さい、安心して預けられます。これからも、是非、このような取り組みを続けていただきたいと思います。でんでん保育室に出会え、とても感謝しています



保育の様子

④研修等

充実した保育を行うため、スタッフが様々な研修に参加しました。

日 程	参加者	内 容
22年2月～3月 の間の2日間	保育スタッフ 全員	家政大学ナースリーでの保育研修
6月2日	室長	第6回東京子ども応援協議会参加 特別公演「教育の基本を考える」を聴講 講師 曾野綾子氏
7月7日～27日	スタッフ6名	認可外保育施設職員テーマ別研修に12講座 受講
8月28日	スタッフ全員	認可外保育施設職員テーマ別研修参加者による勉強会
8月初旬	スタッフ7名	保育士資格の国家試験受験、1名合格
23年2月～3月 の間の2日間	新任スタッフ 3名	家政大学ナースリーでの保育研修

⑤事業経費

区 分	項 目	金 額
収 入	政策提案協働事業補助金	5,000,000
	利用料	2,401,000
	預金利子	266
	収入計	7,401,266
支 出	人件費	4,609,431
	保育室賃貸料	1,200,000
	設備改修工事	769,500
	玩具、遊具類購入	333,738
	広報費	20,440
	その他消耗品等	468,157
	支出計	7,401,266

(4) 事業の成果や課題

受け入れにあたっての事前相談や毎日のお子さんの状況報告を丁寧に行うこと、また、利用中にも随時育児相談を行うことによって、育児に不安を抱える母親の負担軽減、ストレス解消に大いに役立ったと思います。

母親の保育負担軽減・乳幼児虐待防止という観点からは、本事業のようなミニ保育がきわめて有効であることが確かめられ、事業目的と実施効果は十分に認められると考えます。

また、スタッフのほとんどは十条地域またはその近隣地域に在住する住民であり、そうしたスタッフがボランティアに働くことによって、地域の者同士の助け合いという感覚での保育が実現しました。

しかし、週開業日と開業時間の枠が狭かったこともあり、パートで働く母親たちのための保育施設開設という当初目的の一つは十分に果たせませんでした。

週1日利用者が予期したよりも多いことにより、利用料収入は計画を上回りましたが、現状は、有償ボランティアを基本とした少ない原資を分け合うワーキングシェアだから運営が成り立っているにすぎず、協働事業補助金がなければ経営は成り立たないことも今後の課題となっています。

(5) 平成23年度の取り組み

北区協働推進基金を引き続き活用し、一時預かり保育を実施しています。

利用者のニーズに合わせて開設日数を週3日から週4日にし、事業の拡充を図っています。



散歩の様子 天気が良い日は必ず散歩で外遊びを行いました

第3章 政策提案協働事業の評価について

1. 評価の目的

協働事業の成果を団体、主管課、選定委員会で検証することにより、事業の妥当性、実施効果を確認し、協働事業の改善への取組、今後の協働事業に役立てるために行います。

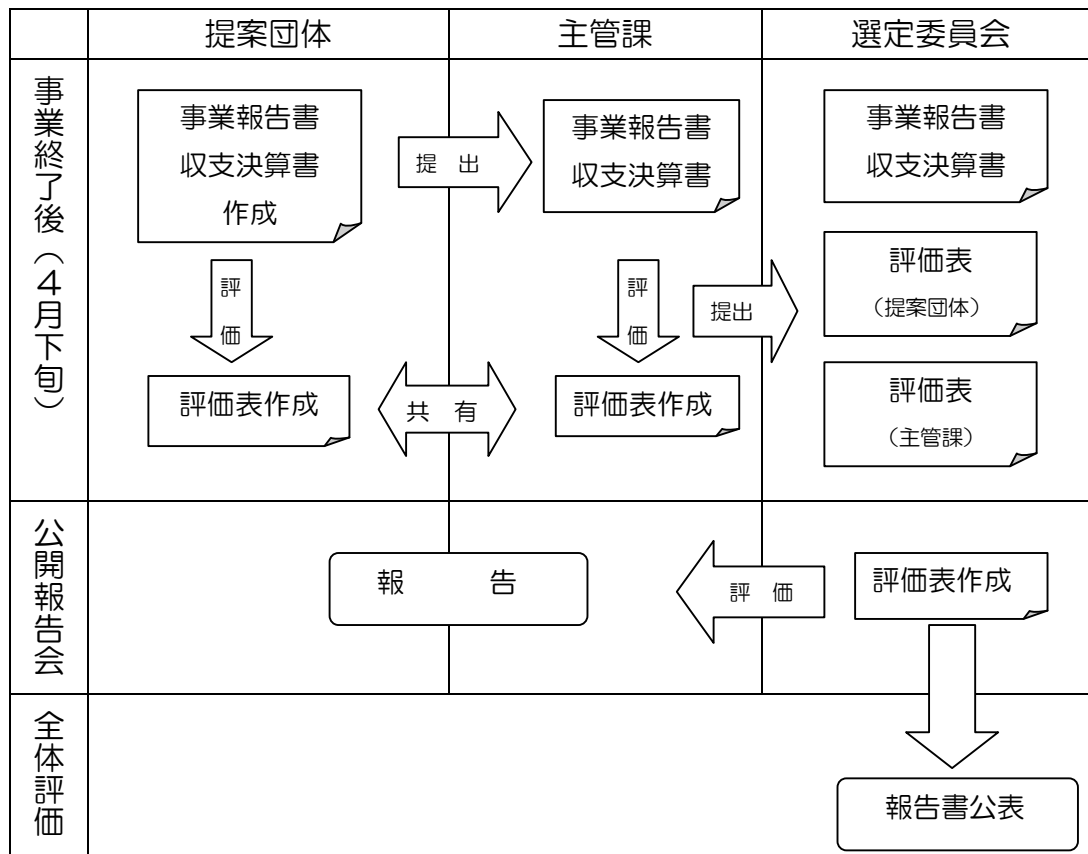
2. 事業の評価方法

協働事業を行った団体と担当の主管課が自己評価を行い、選定委員会へ提出します。事業報告と自己評価に基づき選定委員が評価し、その内容を公表します。

3. 評価項目

- (1) 計画段階での取組
- (2) 事業の進め方
- (3) 協働で取り組んだことによる効果
- (4) 協働事業の成果

4. 評価の流れ



5. 自己評価

(1) 団体の自己評価

提案書の提出段階では、主管課との事前協議をほとんど行うことができなかった。行政内部で、協働事業の周知や意義の理解が不足していると内容ある事前協議ができないと思う。

また、事業が動き出してからとの関係は良好に進行したと思うが、ニーズの掘り起こしや誘導のほかに、書類作成のサポートなどもう少し支えの手が欲しかったとも感じた。なにより、政策提案協働事業期間の終了後の事業の在り方について同じ方向を向いて一緒に悩んでいただけたらと感じた。

結果として、待機児解消の改善策の一環として提案したパートで働く母親たちの支援という目的は十分に達成できなかったが、幼児虐待防止につながる育児不安の母親支援という側面では、十分に意義を見いだせたと思う。

(2) 主管課の自己評価

事業を開始した当初は、利用者が少なかったため、北区ニュースへの掲載や事業案内を保育園の入園案内と一緒に配布するなどのPRを行った。その後徐々に利用者が増加したが、より早く利用者の増加につながるよう、開設当初から積極的に周知を行うなどの支援ができればよかった。

また、事業については当初の目的と方向性は若干変わっているものの、育児疲れによる保護者の心理的、肉体的負担を軽減するための子育て支援事業として、一定の成果があったと認められる。しかし、これらの子育て支援は、認可保育所でも既に実施しており一定の実績をあげている。

子育て支援という区民ニーズに対応した事業を展開しようという趣旨は評価できるが、主管課としては「パートタイムで勤務する母親の支援」になる受け皿としての役割を事業に期待したい。よって当初の目的と利用者の実態が合っていない現状を鑑みると、利用時間の拡大やその他の保育事業への転換も視野に入れたうえで今後の対応策を検討することが必要であると思う。

6. 事業の評価

(1) 計画段階での取り組みについて

待機児童の解消は大きな課題であるが、事前のニーズ調査が不十分であったため、当初の目的であるパートで働く母親たちのための保育施設利用には結びつかない面があったようだ。しかし、今回、利用が多かった仕事を持たない母親への育児支援は、これからの社会的課題となるのではないか。

計画作成時のワークショップで話し合いの機会を持つことができていたが、もう少しお互いに理解が深められればよかったと思う。

(2) 事業の進め方について

それぞれの役割を果たして、計画的に事業を実施することができていた。

他の幼稚園や保育園ともっと連携できれば成果はより高いものになったのではないか。

(3) 協働で取り組んだことによる効果について

協働で事業を進めていくことにより協働相手との信頼関係はある程度深まったものと思う。さらにこれから事業を続けるうちに信頼関係が出来てくるのではないか。

また、行政の持っている色々な力や知識を利用することにより、より多様な子育てが出来るのが判り、協働で取り組んだことにより効果があったと思う。

(4) 協働事業の成果について

当初の目的である待機児童解消につながったとは言い難いが、新しい課題を掘り起こすことはできた。保育の問題は終わりが無いので、数や規模を広範囲にして行ってほしいと思う。

お互いに反省点などを話し合うことが出来ていて、次の取り組みへのよいステップと成り得る事業になったのではないか。

(5) 総合評価

本事業は、北区のファミリーサポート事業や一時預かり保育の変形である。多様なニーズの一部に corres 応することが出来た半面、期待された成果と地域への波及効果が十分に得られなかったのではないか。

また、事業の目的や成果について、団体と区の間で温度差が感じられた。相互の信頼関係をより強固なものにするには一定の時間も必要です。今後とも、新しいニーズの発見と取組を踏まえて行政へ伝えていく先駆的役割を期待しています。

平成22年度 北区政策提案協働事業報告書

平成23年11月14日発行

刊行物登録番号
23-1-087

発行 東京都北区地域振興部地域振興課
東京都北区王子一丁目11番1号
電話 5390-0093 (ダイヤルイン)